

令和5年度 江戸川区立下鎌田東小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	・生涯にわたって学ぶ意欲をもち、生きる力の基となる考える力の育成 ・自分も相手も大切に、豊かでしなやかな心の育成 ・健康な体をつくり、粘り強くやり抜く力の育成	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・笑顔と活力にあふれ、児童一人一人が自分のよさを発揮できる学校 ・考える子 思いやりのある子 たくまい子 ・全ての教職員が協働し、質の高い教育活動の実現を目指す教師
--------	---	----------------------------	--

前年度までの学校経営上の成果と課題	<p>&lt;成果&gt; 校内OJTの推進により、教員が一人一台端末(iPad)の活用について研鑽を深め、授業等での積極的な活用が行われた。不登校等、長期に渡り欠席する児童が年間をおとしてほばいなくなったことは成果である。引き続き対応を行っていく。</p> <p>&lt;課題&gt; 新型コロナウイルス感染症対策の継続と学習活動、学校行事等の在り方、制限の見直し等を随時行う。一人一台端末(iPad)の活用を推進していく上での情報モラル教育の徹底を図る。</p>		
-------------------	---	--	--

教育委員会重点課題	<取組項目> ・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・全国学力・学習状況調査への取組 ・「東京ベーシック・ドリル」の活用推進 ・放課後補習教室の実施・有効活用	・全国学力・学習状況調査において、平均正答率は全国の平均以上 ・東京ベーシック・ドリル診断シート平均正答率の向上 ・放課後補習教室の定期的な実施と学習定着度について業者との情報共有(各学年週1回)	A	B	○全国学力・学習状況調査の平均正答率は、国語、算数共に全国を上回った。 ○放課後補習教室における児童の定着状況を確認し、各学級での指導に生かしている。	B	・全国学力・学習状況調査において、全国平均を上回ったのは成果である。来年度は、都の平均を上回るよう、引き続き学力向上に向けた取組の推進に期待する。 ・授業の中プレゼンテーションを取り入れており、中着率を把握し、放課後補習教室でCD層の底上げをすすめている。	・全国学力・学習状況調査において、読む分野での得点が低い。来年度は校内は、校内研究が国語科に変わることから「読む」ことに重点を置いた指導の充実を図る。 ・学期の初めにレディネステストを行い学習の呈定着率を把握し、放課後補習教室でCD層の底上げをすすめている。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・探究的な学習での学校図書館の積極的活用 ・区立図書館との連携強化	・全学級、週1回以上学校図書館を活用 ・各教科で探究的な学習を活用した授業展開の実施 ・区立図書館巡回業務を活用した図書館整備(月2回) ・読書週間の実施(年2回)	B	B	○授業の中で、定期的に学校図書館を活用している。 ○区立図書館巡回業務により図書館の整備が進められ、特別コーナーの設置等、児童が利用しやすい工夫がされている。 ●探究的な学習の充実に向けた授業改善が課題で	B	・一人一台端末を活用した調べ学習だけでなく、図書資料を活用するよき児童に指導し、効果的に探究的な学習が進められることを期待する。 ・読書週間や読み聞かせ等の取組を通して、児童がさらに読書に親しみよくなることを期待する。	・東部図書館から派遣されている司書と連携し、児童にお勤めの本を紹介したり、読書をする時間を決まった時間に確保したりする中で、読書への関心興味の実現を図る。 ・国語科の授業を中心に、本で調べたことを積極的に取り入れ、探究的な学習の実施、充実を図る。
	<ICTの推進> 一人一台端末(iPad)を活用した個別最適な学びの充実	・一人一台端末(iPad)を活用した授業改善 ・「ミラ(シート)」の活用推進 ・SNS学校、家庭ルールの実施	・一人一台端末(iPad)を1日1回授業で活用 ・「ミラ(シート)」を適宜家庭学習等での活用と「江戸川」study week(年3回)における重点活用 ・SNS学校、家庭ルールの適宜見直しと改善	B	B	○各学級で一人一台端末を積極的に活用することができた。 ○一人一台端末のルールを策定し、児童に指導するとともに、内容を保護者に周知することができた。	B	・一人一台端末を授業の中で活用できているのは評価できる。併せて情報モラルの指導も引き続き進められることを期待する。 ・オンライン授業が整っていない。 ・デジタル化の宿題がわかりにくい。	・一人一台端末を授業の中でだけでなく宿題にも取り入れ、宿題や家庭学習での活用を図る。 ・ICTモラル教育・ネットリテラシーの充実を図る。 ・扱う教員によって差があるように、校内での情報教育研修の充実を図る。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・休み時間を活用した「運動あそび」(東こタイム)の実施 ・「なわ跳び週間」、「持久走週間」を設定し、基礎体力の向上を図る	・「運動あそび」(東こタイム)の設定(月1回) ・「なわ跳び週間」(1月)、「持久走週間」(2月)の実施	B	B	●体力テストでは、「持久走」、「立ち幅跳び」で都の平均を下回り、課題が見られた。	B	・体育の授業や休み時間では、積極的に活動し、体力向上につながることを期待する。 ・「運動遊び」を通して、児童の持久力の向上を期待する。	・体育の授業や体力テストでは、積極的に活動し、「できる」「できた」という実感や味わうことができるような授業づくりを行い、体力の充実を図る。 ・学期に1回週間ずつ行われることになった「なわとびウィーク」を活用し、「立ち幅跳び」の記録の向上を図る。また「持久走週間」による持久力の練習を通して、持久力の更なる向上を図る。
	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の推進 ・特別支援教育研修の実施 ・副籍交流校と、手紙交換による交流の実施	・全学級によるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の実施(年3回) ・特別支援教室専門員との連携をとおしたエンカレッジルームの適宜効果的な活用 ・副籍交流校と、毎月、学校便りや学年便り等と交換し交流	B	B	○配慮を要する児童に対し、エンカレッジルームを効果的に活用し、個に応じた適切な支援を行うことができています。 ○副籍交流校と、毎月、学校便りや学年便り等と交換し交流している。引き続き、手紙交換による交流を継続していく。	B	・支援を必要とする児童の育成に向けた取組が進められている。引き続き、支援の在り方について検討を行い、より多くの児童が学びやすい環境を整えてほしい。	・生活指導夕会を通して、配慮が必要な児童の校内での共通理解を行い全教員で全児童の支援や指導の充実を図る。 ・特別支援コーディネーターを中心としたSCや特別支援専門員などとの連携を図り、個に応じた指導を継続して行う。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	・毎週的生活指導連絡会の充実 ・いじめ防止に関する授業の実施 ・いじめに関するアンケートの実施(年3回) ・いじめ問題解決率100% ・不登校傾向児童への働きかけ	・いじめ防止に関する授業の実施(年3回) ・いじめに関するアンケートの実施(年3回) ・いじめ問題解決率100% ・不登校児童0	B	B	○いじめ問題については、組織的な対応を行っている。 ○週1回(木曜日)、生活指導連絡会を実施し、いじめ・不登校の防止に向けて教職員で情報共有を行っている。	B	・不登校傾向の児童が少ないのは良いことである。引き続き、保護者との連携を強化して取組を進めていくことが重要である。 ・いじめの解消に向け、教職員が連携しながら取組を進めていくことを期待する。	・いじめ、不登校等については、定期的に情報の共有を行い、早期に組織的な対応を行っている。
	<安心できる学校環境の充実> ・児童の支援体制の充実	・特別支援教室専門員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、児童相談所との連携 ・エンカレッジルームの活用促進	・各関係機関との連携を強化し、定期的な情報共有と個に応じた支援について共通理解	B	B	○特別支援教室専門員を核として様々な児童の実態を基に、エンカレッジルームの有効活用、関係機関との連携を図ることができた。	B	・引き続き、関係諸機関と連携し、日々の指導に生かしてほしい。	・校内体制を整え、各関係機関との連携を継続して行う。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・学校ホームページをとおして本校教育活動の周知 ・学校便り等配布物のデジタル配信をとおして利便性の向上、SDGsの推進、働き方改革の推進	・学校ホームページ(学校日記)に学習の様子等を毎日掲載 ・学校便り、学年便り、保健便り、給食便り等のデジタル配信(各月1回)	A	A	○学校ホームページに、学習の様子を毎日掲載している。今年度4～9月で昨年度のアクセス総数の85%を超える、本校の教育活動を広く周知することができる。	A	・学校ホームページが充実され、児童の学校での様子だけでなく、内容が随時更新されることを楽しみにしているとの声を聞く。	・今年度同様、学校生活の様子を発信しホームページの充実を図る。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・児童、保護者、地域、教職員への学校評価アンケートの実施 ・各行事等における保護者、地域、教職員アンケートの実施	・WEBを活用した効果的なアンケートの実施・充実	B	B	○学校公開や運動会等の学校行事後に「アンケートフォーム」を活用した効果的なアンケートを実施することができた。 ●より多くの保護者がアンケートに回答することができると、アンケート方法を検討する必要がある。	B	・引き続き、保護者や地域からの意見等を参考にし、教育活動を進めていくことを期待する。	・年3回の学校評議委員会、地域や保護者の意見を受け止め日々の教育活動に生かしていく。 ・行事ごとのアンケートや年一回の保護者アンケートでは質問内容を検討し、保護者や地域の意見を教育活動の充実を図る。
特色ある教育の展開	<働き方改革の推進> ・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・副校長補佐、スクールサポートスタッフの活用 ・1斉定時退勤日の設定 ・完全退勤時刻を20時に設定	・勤務時間外在校時間45時間以内の教職員85%以上	B	B	○月1回、定時退勤日を設定し、効果が見られた。 ●教職員の勤務時間外在校時間45時間以内の達成状況に差がある。	B	・教職員が日々心身ともに健康な体で教育活動に取り組んでいくために、働き方改革をさらに推進していくことを期待する。	・業務内容の見直しを行い、必要に応じて校務分掌の改善、業務削減を行い、具体的な働き方改革の実現を図る。
	<児童の自主性の育成> ・「自らすすんで」行動する児童の育成	・異学年交流の取組を年間を通して実施 ・ノーチャイムでの学校生活の実施	・「なかよし班活動」を実施(月1回)	B	B	○児童はノーチャイムでの学校生活が十分に定着しており、時間を意識した行動をとることができている。	B	・児童の自主性がさらに高まり、様々なことにも意欲的に挑戦する気持ちや大膽に生かしてほしい。	・時間を意識して行動することができるので、来年度はいざづつの充実を図っていく。